

8,750万円

一般会計	250億 7,800万円
特別会計	163億 3,498万円
企業会計	28億 7,452万円



本庄市長

吉田 信解

平成23年度は、本市の掲げるまちづくりの将来像「あなたが活かす、みんなで育む、安全と安心のまち 本庄」世のため、後(のち)のため」の実現に向け、着実に市政の進展に邁進する所存でございますので、みなさんの一層のご支援とご協力をお願いします。

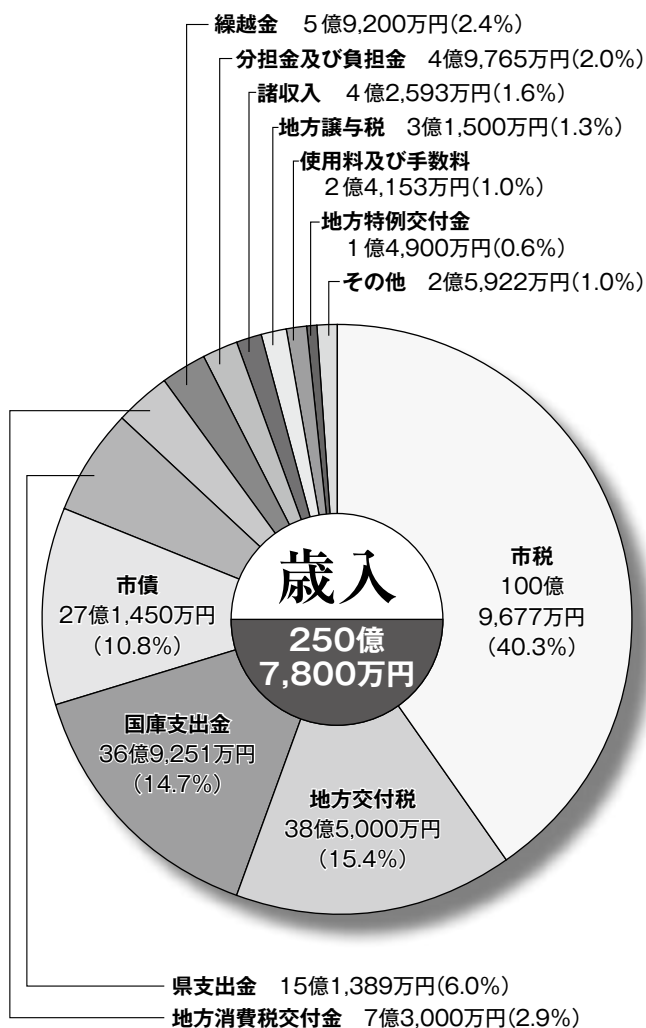
【行政経営に関する基本的な考え方】

「景気は、持ち直しに向けた動きがみられ、足踏み状態を脱しつつある。ただし、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある」とされるなど、依然として混迷した状況にある中、少子化、高齢化が進み人口が減少するという、近代国家始まって以来の拡大基調から、一転して未だ経験したことのない時代に突入しています。

しかし、「経済は拡大し続けるもの」という過去の考え方があまりにも強かったことから、発想を変えられず、いまだに政治が目指すものは「今の自分たちのための富の分配」であり、赤字国債などに頼る結果、子孫に負担を強いることとなっています。

21世紀になって、はや10年、これからの常識は「限られた資源を有効に活

予算の構成



平成23年度当初予算の概要

★財政課 ☎ 1163

平成23年度の予算編成では、総合振興計画に定められたまちづくりの将来像の実現に向けて、5つのキーワード

- 1 安全で安心して暮らせるまちづくり
- 2 活力ある経済基盤づくり
- 3 心豊かで健やかな人づくり
- 4 市民との協働を推進するまちづくり
- 5 全国に知られるまちづくり

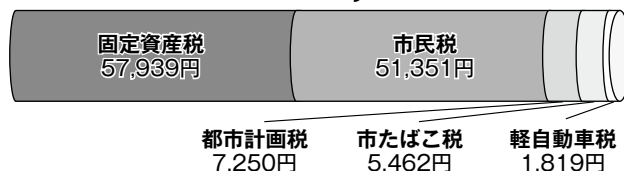
を基準に事業を選択しました。

また、景気の低迷などにより、市税の減収が見込まれるなか、将来に向け持続可能な自治体として、行財政改革の推進、財政健全化を考慮して予算編成を行いました。

その結果、一般会計・特別会計・企業会計をあわせた予算総額は、442億8,750万円(前年度比1.2%増)となりました。

市民1人当たりが負担する市税*

総額 123,821円



*平成23年1月1日現在の人口(81,543人)をもとに計算

23年度予算（一般・特別・企業会計をあわせて）

総額442億

かして、子孫のために持続可能な社会をどう創るか」という考え方であり、国、地方を問わず、そのためのチャレンジが求められています。

本市の総合振興計画の将来像に掲げているまちづくりの目標は、そのためのものであります。本市は、今後とも、より一層の事業の見直しを図り、真にその事業が必要かどうかを精査し、時代に先駆ける行政経営を目指します。

【予算編成の基本的考え方】

景気の低迷や雇用の不安定等により、個人市民税をはじめとする市税収入などの自主財源が減少しており、地方交付税や臨時財政対策債などの依存財源に頼らざるをえない、大変厳しい財政状況であると認識しています。

このような中、平成23年度の予算編成にあたりましては、本庄市総合振興計画の基本構想に掲げられた将来像の実現に向けて、各施策の意義、目的、効果等を念頭に置き、5つのキーワード（2ページ参照）を基準とし、事業を選択して予算編成を行いました。

さらに、市税等の減収が見込まれる財政状況下にあるため、「本庄市行政改革大綱」に基づき、歳出の節減合理化や特別会計の収支適正化に努めるとともに、国や県の交付金事業等を効果的に活用し、安定した財政基盤の確立に努めることとし、財政指数の改善など、財政健全化を考慮した予算編成としました。

前年度予算との比較

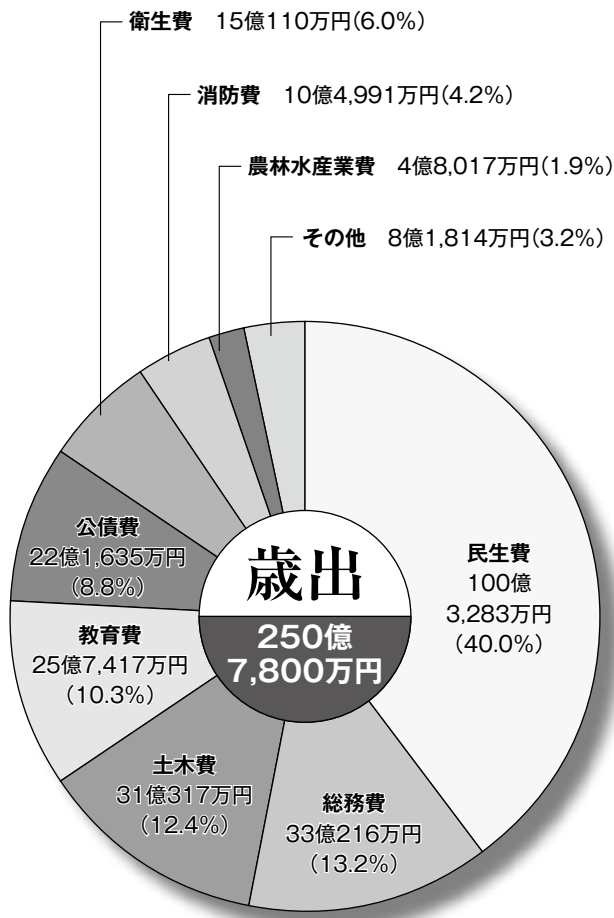
平成22年度	437億7,297万円
平成23年度	442億8,750万円

会計別予算

区	分	予算額	増減率
一	般 会 計	250億7,800万円	△0.6%
特 別 会 計	国民健康保険会計	86億914万円	1.4%
	公共下水道事業会計	23億561万円	△3.0%
	住宅資金貸付事業会計	912万円	△3.5%
	児玉南土地区画整理事業会計	2億3,845万円	△10.1%
	農業集落排水事業会計	1億441万円	18.4%
	介護保険会計	44億6,518万円	12.3%
	後期高齢者医療会計	6億307万円	△5.5%
企業会計	水道事業会計	28億7,452万円	10.5%
合	計	442億8,750万円	1.2%

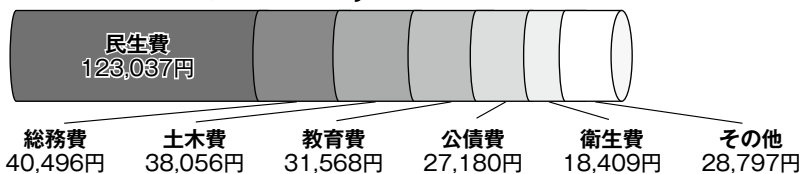
※水道事業会計は、収益的支出及び資本的支出で集計

一 般 会 計



市民1人当たりに使われるお金※

総額 307,543円



※平成23年1月1日現在の人口（81,543人）をもとに計算